

調査票(放課後等デイサービス用_個別サポート加算I)

記入年月日 年 月 日
児童氏名:
年齢:
記入者氏名:

手帳所有 : あり(手帳の種類を選択) ・ なし
○療育手帳(A ・ B1 ・ B2)
○精神障がい者保健福祉手帳(級)
○身体障がい者手帳(1級 ・ 2級 ・ その他(級))

①食事	記入例	支援の必要性
☐ 一人で食べることができる。 ☐ 食べこぼしも少なく、箸(補助箸を除く)を使用して、自分で食べることができる。		☐ 支援不要
☐ 窒息や危険な行動 ☐ 食事(給食)を他者 ☐ 食材を小さくする等の配慮や、時折食事を大人が口に運ぶ程度の支援があれば食べることができる。 ☒ スプーンやフォークを使えば食べることができる。		☐ 一部支援が必要である
☐ 過食・拒食・異食行為・反すうがある。(頻度:) ☒ 食事形態の配慮が必要(柔らかくする、つぶす等、栄養補助ミルク含む) ☐ 手づかみ・食べこぼしが多い。 ☐ 窒息・転落防止の常時見守りと個別対応が必要。 ☐ 大人が介助することを払いのける、食器や食材を投げるなどの行為がある。 ☐ 他者と一緒の場所・時間での食事が難しく、個別の環境設定が必要。		☒ 常に支援が必要である

①食事面	支援の必要性
☐ 一人で食べることができる。 ☐ 食べこぼしも少なく、箸(補助箸を除く)を使用して、自分で食べることができる。	☐ 支援不要
☐ 窒息や危険な行動がないか等、食事中的の見守りや食事の進捗状況で声かけが必要である。 ☐ 食事(給食)を他者と一緒の場所・時間に食べることができる。 ☐ 食材を小さくする等の配慮や、時折食事を大人が口に運ぶ程度の支援があれば食べることができる。 ☐ スプーンやフォークを使えば食べることができる。	☐ 一部支援が必要である
☐ 過食・拒食・異食行為・反すうがある。(頻度:) ☐ 食事形態の配慮が必要(柔らかくする、つぶす等、栄養補助ミルク含む) ☐ 手づかみ・食べこぼしが多い。 ☐ 窒息・転落防止の常時見守りと個別対応が必要。 ☐ 大人が介助することを払いのける、食器や食材を投げるなどの行為がある。 ☐ 他者と一緒の場所・時間での食事が難しく、個別の環境設定が必要。	☐ 常に支援が必要である

②排泄	支援の必要性
☐ 尿意、便意を感じとり、トイレの一連の行為を一人で行うことができる。	☐ 支援不要
☐ 大人がトイレ等に誘導することで排せつすることができるが、見守りや拭き取り等の支援が必要である。 ☐ 「トイレ」等の単語やジェスチャーなどで、意思表示もしくは支援を求めることができる。 ☐ 決まった場所ですしか排せつをしたがらない。(例:決まった便器や自宅であれば、排せつができる)	☐ 一部支援が必要である
☐ 排せつをする際に、譲れないルールがある。(具体例:) ☐ 排せつ物を直接手で触ることや、トイレ以外の場所で排せつすることがある。 ☐ 月経の対応に手伝いが必要である。 ☐ 導尿・自己導尿の見守り、ストーマや摘便などの医療的な支援が必要である。 ☐ おむつや尿取りパットを使用している、自立しているがオムツを着用したがる、頻尿がある、夜尿がある。	☐ 常に支援が必要である

③入浴	支援の必要性
☐ 一連の行為の全てを自分で行うことができる。	☐ 支援不要
☐ 入浴の準備行為に時間を要する、又は入浴してもあがるまでに時間を要するため、見守りや配慮が必要。 ☐ 「身体や頭髮、顔を洗う、拭く」行為が不十分で大人が部分的に手伝う、やり直しをする必要がある。 ☐ 感覚過敏があり、洗髪や洗顔、洗身に拒否を示すため、配慮が必要である。	☐ 一部支援が必要である
☐ 一連の行為の全てを自分で行うことができないため、全面的(常時)に支援が必要である。 ☐ 「身体や頭髮、顔を洗う、拭く」行為が不十分なため、大人が全面的にやり直しを必要とする。 ☐ 医療上の必要で入浴禁止のため配慮しながらの清拭が必要、またはその他事情により清拭のみ可能。 ☐ 入浴する際に首の座りが悪く、体幹が弱いため配慮が必要である。 ☐ シャワーを怖がる、浴槽を嫌がるなど、入浴への恐怖感がある。	☐ 常に支援が必要である

④移動	支援の必要性
☐ 一人で歩くことができる。 (補装具を使用している場合には、補装具が身体に合っていて自分で歩行ができる状態である。)	☐ 支援不要
☐ 手をつなぐなどのサポートが必要。 ☐ 一人で歩くことはできるが、安定性やバランスの面で不安があり、見守りが必要である。 ☐ 補装具を使用しているが、体の使い方にぎこちなさがある状態や、補装具を使い始めて間もなく慣れていない場合である。 ☐ 一人で歩くことはできるが、安定性やバランス面で不安があり、時折身体を支える等の支援が必要である。 ☐ 杖や保護帽などの補助具が必要。	☐ 一部支援が必要である
☐ 車いすを使用している。	☐ 一人で歩くことが難しい

⑤危険認知	支援の必要性
☐ 自分で危険な物や場面を理解して回避することができる。	☐ 支援不要
☐ 一人では難しいが、大人が声かけや視覚的な手がかり等で危険を伝えることで、危険を回避できる。	☐ 一部支援が必要である
☐ 危険を回避するためには、支援者の介入が必要である。	☐ 常に支援が必要である

⑥コミュニケーション	支援の必要性
☐ 日常生活(新規の場所や初見の人でも)における口頭での自分の意思の伝達に支障がない場合。	☐ 支援不要
☐ 特定の人(保護者など)としかコミュニケーションがとれない。 ☐ 特定の人(保護者など)しか理解できないサインで意思を表現する。 ☐ 慣れない場所や人前では、表情が硬く話すことが難しい状態。 ☐ 吃音がある。 ☐ コミュニケーションツール(絵カード、ICTの活用、PECS等)を用いるとコミュニケーションができる。 ☐ 手話や筆談、点字等を用いている。 ☐ 外国語でのコミュニケーションが必要なために、翻訳アプリの導入等の配慮を行っている。	☐ 支援が必要な場合がある
☐ 会話のやりとりはなく、一方的に話しかけたり、テレビのコマーシャルの台詞などを独り言のように話したりするが、自分の意思の伝達ではない。 ☐ 相手からの話しかけに、そのままオウム返しで返答している。 (例:「わかった」という問いかけに「わかった」と返答するが、意味が理解できていない場合等) ☐ 行動や日常生活上パターン化された内容でのみ自分の意思を伝えられる。 (例:冷蔵庫の前に行く、他者の手を引いておもちゃを取らせる、ご飯と言う、おもちゃのみ指さしする等)	☐ 常に支援が必要

⑦説明の理解	支援の必要性
☐ 簡単な口頭での説明をおおむね理解し、うなずいたり、返事を行い、説明に伴った行動ができている場合。	☐ 支援不要
☐ 簡単な口頭での説明を聞いてうなずいたり、返事をするが、その後の行動が伴わないことがある。 ☐ 1つのことはできるが、同時に2つ以上のことを指示されると行動が困難になる。 ☐ コミュニケーションツールを用意することまたはジェスチャーで補足することで、理解が促進する。	☐ 支援が必要な場合がある
☐ 簡単な口頭での説明をしても、うなづきや返事などが見られず、理解できていると考えられない、又は、理解しているのかを判断ができない。 ☐ 日常生活の中で、パターン化された特定の行為(座る、食べる等)のみ理解できる。	☐ 常に支援が必要

⑧大声・奇声を出す	支援の必要性
☐ 周囲が驚いたり、他者が迷惑となるような大声や奇声を出す場合。	☐ 支援不要(該当項目なし)
☐ 物などを使って周囲に不快な音を立てる場合。	☐ 支援が必要な場合がある (月1回程度以上)
☐ 時間帯と場所を選ばず大声・奇声を出す。	☐ 常に支援が必要 (週1回程度以上)

⑨異食行動	支援の必要性
☐ 食べられないものを口に入れる。 (例:石や砂、玩具類、腐った食べ物、地面に落ちて明らかに汚れている食べ物、酒類、洗剤類など)	☐ 支援不要(該当項目なし)
☐ 物を口に入れて感触遊びをしたり、確認したりする行為がある。 ☐ 服の袖を噛んだり、紐を口に入れることがある。	☐ 支援が必要な場合がある (例:物があると口に含むことがある。)
	☐ 常に支援が必要 (例:物を飲み込む。)

⑩多動・行動停止 ●多動 ☐ 周囲と協調できず、絶えず動いてしまう。またはマイペースに周囲と無関係に動いてしまう。 ☐ 常時走り回る、1箇所に留まることが難しい。 ☐ 絶えず喋っている。 ☐ 体の一部を常時動かしている。 ☐ 5～10分程度であれば指示に応じることができるが、その後すぐ同じ行動を繰り返してしまう。 ☐ ゆっくりした行動が難しい。(例:歩くことができず、すぐに走ってしまう等) ☐ バランス感覚がアンバランスのために、転びやすい、怪我をしやすい、高いところから落ちやすい。 ●行動停止 ☐ 本人の意思とは関係なく、次の行動に移ることが難しい。	支援の必要性 ☐ 支援不要(該当項目なし) ☐ 支援が必要な場合がある (部分的に支援が必要。 例:月1回程度以上) ☐ 常に支援が必要 (習慣化している。 例:週1回程度以上)
⑪不安定な行動 ☐ 特定の物・人へ固執することで安定を図り、それが無くなったり、変更してしまうと不安定になる。 ☐ パニック、突然泣き出すことがある。 ☐ 突然の予定変更があると次の行動ができなくなる。また、不安になり落ち着きがなくなってしまうたり、行動が停止する。	支援の必要性 ☐ 支援不要(該当項目なし) ☐ 支援が必要な場合がある (部分的に支援が必要。 例:月1回程度以上) ☐ 常に支援が必要 (習慣化している。 例:週1回程度以上)
⑫自らを傷つける行為 ☐ 自分の頭を叩いたり、床や壁に打ちつける。 ☐ 自分をつねる。 ☐ 傷口を触ったり、ほじったりして治らない。 ☐ 自分で口に指を入れて嘔吐する。 ☐ 衣服を破ることがある。	支援の必要性 ☐ 支援不要(該当項目なし) ☐ 支援が必要な場合がある (該当行為がある) ☐ 常に支援が必要 (常時見守りや個別対応が必要)
⑬他人を傷つける行為 ☐ 他人を叩く、髪を引っ張る、蹴る、押す等の行為がある。 ☐ 物を壊したり、投げたりする行為がある。 ☐ 暴言(バカ、死ね等)、相手を侮辱したり、からかったり、いじめたりする行為がある。 ☐ 他人へ過剰な注意や干渉によるトラブルを起こす場合がある。	支援の必要性 ☐ 支援不要(該当項目なし) ☐ 支援が必要な場合がある (該当行為がある) ☐ 常に支援が必要 (常時見守りや個別対応が必要)
⑭不適切な行為 ☐ 見知らぬ人に対し、過度に親しげな振る舞いをする。(例:抱きつく、のぞき込む、体に触るなど) ☐ うそをついたり、断りもなく人の物を持ってきてしまう(盗む)。 ☐ 感情のコントロールに困難があり、些細な出来事で直ぐにかんしゃくをおこしたり、周囲の人とトラブルになりやすい。 ☐ 意図的に保護者や職員等に従わず反抗する。また、過度な要求をする。 ☐ 自慰行為がある。 ☐ 過度に人や物の臭いを嗅ぐ行為がある。 ☐ 不適切な場所で放便・放尿がある。 ☐ 意思が伝えられないために、友達を叩いてしまう、物を投げるなどの行為で表現する。	支援の必要性 ☐ 支援不要(該当項目なし) ☐ 支援が必要な場合がある (部分的に支援が必要。 例:月1回程度以上) ☐ 常に支援が必要 (習慣化している。 例:週1回程度以上)
⑮突発的な行動 ☐ 手にしたものを突発的に投げてしまう。 ☐ 気になるものや事柄があると、大人から勝手に離れてしまい、迷子や行方不明になることがある。(常に見守りや防止するための環境設定が必要) ☐ 気になることがある場合に、手を繋いでいても振り切り、気になる方に行ってしまう場合がある。 ☐ 危険の認識が弱く、突発的に道路に飛び出したり、自分の身体能力を超えた高さから飛び降りる、熱いものなど危険なものに手を出してしまう。	支援の必要性 ☐ 支援不要(該当項目なし) ☐ 支援が必要な場合がある (部分的に支援が必要。 例:月1回程度以上) ☐ 常に支援が必要 (習慣化している。 例:週1回程度以上)

⑩過食・反すう等	支援の必要性
●食に関する行動上の問題 ☐極度な偏食(例:白米だけしか食べない等、特定の物だけしか食べない)あり、食事面で配慮している。 ☐過食、拒食(例:異常な量を食べる、環境の変化によって食べられなくなるなど)がある。 ☐口に入れたものを飲み込まず、口に溜めたままにする。 ☐際限なく水を飲み続ける、嘔吐を繰り返す。 ●食に関する特別な配慮 ☐アレルギー食対応、宗教食対応が必要。 ☐咀嚼(噛む行為)・嚥下(飲み込む行為)の課題があり配慮が必要。(例:きざみ、ミキサー食など)	☐支援不要(該当項目なし) ☐支援が必要な場合がある(部分的に支援が必要。例:月1回程度以上) ☐常に支援が必要(習慣化している。例:週1回程度以上)

⑪てんかん	支援の必要性
☐ 過去にてんかん歴なし	☐ 支援不要(該当項目なし)
☐ 服薬対応までしていないが、てんかんの経過観察を行っている。	☐ 支援が必要な場合がある
☐てんかんの診断がある(薬で発作を予防している場合も含む)。 ☐発熱時に抗けいれん座薬等で対応をしている。 ☐薬の服用状況の確認を常に行なっている。	☐ 常に支援が必要

⑬そううつ状態	支援の必要性
●うつに関連する行動 ☐睡眠に課題がありリズムが崩れやすく、睡眠が安定しない、まとまった睡眠がとれない。(例:入眠できない、夜中に何度も目を覚ます、昼夜逆転等) ☐睡眠障害に関する診断や治療をしている。(薬名:) ☐気分安定剤などの薬物を使用している。(薬名:) ☐前後の脈絡なく急に泣いたり、笑ったりする。 ☐日常の活動への興味や意欲が感じられない。 ☐自殺企図がある。 ●そうに関連する行動 ☐気分の高揚、過度な興奮状態、怒りやすい ☐社交性の増大 ☐多動、多弁	☐支援不要(該当項目なし) ☐支援が必要な場合がある(部分的に支援が必要。例:月1回程度以上) ☐常に支援が必要(習慣化している。例:週1回程度以上)

⑭反復的行動	支援の必要性
☐物や行為にこだわり特定の行為を反復する(例:言葉やTVのフレーズを繰り返し話す、機械類をずっと見ていたり、気になると時や場所を選ばず寄って行ってしまう、特定の玩具でしか遊ばない。) ☐スケジュールや物の置く位置などが変わると混乱し元に戻すように求めたり、戸の開閉を過度に気にして、きちんと閉まっていないとパニックを起こすため配慮が必要。 ☐自分の気になることを、何度も聞き返す。 ☐くるくる回るものやキラキラするものに集中し、動けなくなることがある。 ☐回る物や紐などを常に持ち、それらを常に動かしている。 ☐上半身を前後に揺らす、ジャンプを繰り返すなどがあり、時と場所に依じて配慮している。 ☐日常生活の中で、決まったルーティン(例:服を着る順番が決まっているなど)を行わないと次の行動にうつれない。 ☐日常生活の中で、決まった道以外を通るとパニックになる。	☐支援不要(該当項目なし) ☐支援が必要な場合がある(部分的に支援が必要。例:月1回程度以上) ☐常に支援が必要(習慣化している。例:週1回程度以上)

⑯対人面の不安緊張・集団への不適応	支援の必要性
☐一定期間学校へ行けなかったり、事業所の中に入れなかったり、家に引きこもっている状態。 ☐全くもしくは短時間しか集団参加できず個別に対応が必要。 ☐新しい場所など慣れない場所に行くと動けなくなり、会話ができなくなる、緘黙がある。 ☐不安緊張が高まるとその場にいられなくなる、もしくはその場で動けなくなってしまう。 ☐アイコンタクトが乏しく(話しているときや話しかけられているときに相手の顔を見ない)配慮が必要。 ☐チック(目をパチパチさせたり、意図しない声が出してしまうなど)など身体症状にあらわれている場合。 ☐爪かみ、指しゃぶりがある。 ☐ファンタジーの世界に入ってしまう、やりとりが成立しない。 ☐感覚過敏により日常生活への適応に困難があるため配慮が必要。(例:温度、食感、音が過剰に聞こえる、つま先立ちで歩く、光や色を過剰に感じる、皮膚感覚が過敏で同じ服しか着ることができないなど)	☐支援不要(該当項目なし) ☐支援が必要な場合がある(部分的に支援が必要。例:月1回程度以上) ☐常に支援が必要(習慣化している。例:週1回程度以上)

⑰読み書きについて支援が必要ですか。	支援の必要性
☐ 何らかの支援がなくても、文字の読み書き及び意味の理解ができる。	☐ 支援不要(該当項目なし)
☐文字の読み書き及び意味の理解の一部を自分で行うことが難しいため、部分的に支援(見守りや声かけ等の支援を含む)が必要である。 ☐書くことは難しいが、パソコンやタブレット等の代用手段を使用すればできる。	☐ 支援が必要な場合がある
☐文字の読み書き及び意味の理解に関して、全面的に支援が必要である。 ☐文字に興味を示さない。 ☐学習障がい診断がある。 ☐外国語でのコミュニケーションが必要なために、翻訳を行う必要がある。	☐ 常に支援が必要